
日付：2004年4月15日
提出元：Conexant Systems, Inc.
題名：JJ-100.01 第3版に向けて

JJ-100.01 第3版に向けて、大きな課題となっているのは TCM-ISDN 扱いについてと、それに関係するものである。本寄書では JJ-100.01 第2版についてのいくつかの問題点や矛盾点を述べ、第3版での改善と、TCM-ISDN を保護判定基準値から除外することを提案する。

- (1) JJ-100.01 第2版では、TCM-ISDN からの干渉を保護判定基準値で計算されるため、特に ADSL 下り性能値が非常に低くなっている。今後、他 ADSL システムにこのような非常に強い干渉を与えるシステムを日本アクセス網に導入することは適切でない。
- (2) JJ-100.01 第2版では、単一方式対単一方式の組み合わせしか計算されない。一方現実では1回線の周りの隣接回線に複数の方式が存在するのが一般である。TCM-ISDN が FDM ADSL に影響する程度は新方式が FDM ADSL に与える影響が同じか以下であれば JJ-100.01 第2版では許される。新方式が TCM-ISDN と同じ PSD の形であればモデルを理解できるが、新方式が TCM-ISDN と異なる PSD を持つ場合、仮に同一カッドに新方式、隣接カッド4回線に TCM-ISDN が存在するとき、被干渉方式である FDM ADSL は単一 TCM-ISDN (JJ-100.01 第2版保護判定基準値) よりも強い干渉を受ける可能性がある。
- (3) JJ-100.01 第2版によれば、漏話量の大きい回線では、3.5km 以遠で TCM-ISDN は FDM ADSL により不通になることになる。ただし、このような事態は一度も報告されたことがない。TCM-ISDN の保護される距離対性能は無意味になる。与干渉システムとしても、被干渉システムとしても、適切でないと判断できる。

上記により、TCM-ISDN を保護判定基準値から除外することを提案する。

以上